

第64次南極地域観測隊越冬隊の現況（2023年6～8月）

1. 気象・海氷状況

- 6月：6月は高気圧に覆われてよく晴れた日もあったが、低気圧や気圧の谷の影響で悪天の日も多くあった。平均して気温や湿度が高く、風が強かった。発達した低気圧の断続的な接近に伴ってブリザード(B級3回、C級2回)を記録した。なお、極夜期間のため、日照時間は観測されていない。6月上旬に開放水面が確認されたオングル海峡とオングル諸島西方海域では、月末の段階で結氷が進んでいるように見受けられる。
- 7月：7月は天気が周期的に変化したが、低気圧の影響で悪天の日も多く、平均して気温は高かった。中旬と下旬に発達した低気圧の接近に伴ってブリザードを記録した。東オングル島周辺の海氷に大きな変化は見られない。29日にオングル海峡の中間部まで氷況の調査を行ない、氷厚が約80cm前後まで発達していることを確認した。
- 8月：8月は下旬を中心に低気圧の影響で気温と湿度がかなり高く、日照時間がかなり少なかった。また、風が強かった。22日から24日にかけて64次隊として初めてA級ブリザードとなるなど、6回のブリザードを記録した。一方、19日は気温が下がり、64次隊として初めて-30℃を下回った。31日に基地上空300mからドローンを使って周辺海域の撮影を行なったところ、ラングホブデ方面、ルンパ島周辺、オングルカルベン西方から北西方向にかけて開放水面を確認した。オングル海峡の海氷に変化はないものの、今後海氷の割れ込みが海峡にも広がって来る可能性があるため変化を注視したい。

2. 基地活動

- 6月：極夜に入ったが、心身に変調を来たす隊員は見受けられず、観測や設営業務を滞りなく実施することが出来た。越冬生活最大のイベントであるミッドウィンターフェスティバル(MWF)を19日から22日にかけて実施し、準備から本番まで全員が参加して楽しみ、越冬後半に向けて鋭気を養った。6月は上旬と下旬に悪天が続き、外出注意令を6回、外出禁止令を1回発令した。天候回復後には、手空き総員で基地主要部並びに観測用建屋周辺の除雪を実施した。MWF期間を除き、毎週月曜日夕方のミーティング後に事故事例研究を継続した。14日には第2居住棟で火災が発生した想定で5回目の消防訓練を実施した。また、16日には昭和基地で重大事故が発生したとの想定で、国内との連携訓練を実施した。26日と27日に各部会、28日にオペレーション会議、30日には全体会議を開催した。
- 7月：12日に極夜が明け、日中の明るい時間帯が徐々に延び、海氷上のルート工作が再開されるなど、屋外での活動が少しずつ増える1か月となった。観測や設営業務は、多少のトラブルはあるものの概ね順調に実施することが出来た。7月は悪天の日が多く、外出注意令を6回、外出禁止令を2回発令した。16日にC級、30日から31日にかけてB級のブリザードを記録した。天候回復後には、手空き総員で基地主要部並びに観測用建屋周辺の除雪を実施した。毎週月曜日夕方のミーティング後に事故事例研究を継続した。12日には自然エネルギー棟で火災が発生した想定で6回目の消防訓練を実施した。26日に各部会、28日にオペレーション会議、31日には全体会議を開催した。
- 8月：65次隊で計画されているドーム旅行の準備を本格化させ、S16でのオペレーションを中心にいくつかの野外行動を計画していたが、荒天の影響で計画の見直しを余儀なくされるとともに、ブリザードの合間に除雪に追われる1か月となった。観測や設営業務は、多少のトラブルはあるものの概ね順調に

実施することが出来た。8月は風雪を伴う荒天の日が多く、外出注意令を13回、外出禁止令を5回発令した。ブリザードはA級1回、B級4回、C級1回を記録した。天候回復後には、手空き総員で基地主要部、観測用建屋周辺、PANSYエリアの除雪を精力的に実施した。24日には観測棟で火災が発生した想定で7回目の消防訓練を実施した。28日に各部会、29日にオペレーション会議、31日には全体会議を開催した。

3. 観測

6月：基本観測、研究観測を概ね順調に実施した。モニタリング観測の一環として、地磁気絶対観測を9日に実施した。S17に設置している気象ロボットに障害が発生しており、5月から湿度が欠測となっている。PANSY観測では、除雪を継続しており、必要に応じてアンテナエレメントの取り外しを行なっている。

7月：基本観測、研究観測を概ね順調に実施した。モニタリング観測の一環として、地磁気絶対観測を13日に、VLBI観測を26日から27日にかけて実施した。

8月：基本観測、研究観測を概ね順調に実施した。モニタリング観測の一環として、地磁気絶対観測を11日に、VLBI観測を29日から30日にかけて実施した。

4. 設営

6月：発電機の電源切り替え、装軌車の整備、燃料移送、汚水処理設備のメンテナンスなどを行なうとともに、ブリザード後には多くの隊員が参加して建物周りの除雪作業を積極的に行った。

7月：発電機の電源切り替え、装軌車の整備、燃料移送、汚水処理設備のメンテナンスなどを行なうとともに、ブリザード後には多くの隊員が参加して建物周りの除雪作業を積極的に行った。野外行動を再開し、西オングル、とっつき岬のルート工作を実施した。

8月：発電機の電源切り替え、装軌車の整備、燃料移送、汚水処理設備のメンテナンスなどを行なうとともに、ブリザード後には多くの隊員が参加して建物周りの除雪作業を積極的に行った。野外行動は、とっつき岬ルートとS16ルートの日帰りでのルート工作を実施した。64次隊初の宿泊野外行動として、S16の残置櫓掘り出しオペレーションに出かけたものの、MS16に残置していた櫓の掘り出しに手間取り、S16でのミッションを達成せずに昭和基地に帰還した。

5. その他

MWFに伴い、南極地域の他国の基地とグリーティングカードを交換して交流を図った。

生活系の活動も活発で、7月には卓球大会を、8月には夏をテーマにしたイベントを開催して隊員間の親睦を図った。農協係が栽培している野菜の収穫量が多く、食卓に彩を添えて好評である。

また、南極の越冬基地を対象としたWinter International Film Festival of Antarcticaの48 Hour Challengeに参加し、昭和基地内の各所で撮影を行なってWIFF事務局に送付した。

情報発信としては、7月に1件の南極中継を実施したほか、6月～8月にかけて5件の南極教室を実施した。また、定期的に観測隊ブログ、極地研公式SNSへの投稿を行い、観測隊の様々な活動を発信している。